

文芸

俳句

竿売りの廻り来る路地五月尽

池田 逸子

苗箱を洗ふ植田の風の中

伊藤 敬子

夫好む炙り難し初鯉

今関満喜子

母の日に祖母に昇格知らせあり

魚地 照子

青蛙留守番貌で畏まり

川島 通則

夏帽子傘寿のゴルフ打ちにけり

向後 寛

テレビ塔里のシンボル青田風

越川せつ子

ほん降りにさせて黙せり青蛙

越川 義則

こいのぼり器の面を賑やかす

小松 藤男

想ひ出の童唄きく茅花道

佐瀬 輝夫

雨孕む青田の鷺の行者めく

椎名万里子

そこここにてつべん走る山の藤

市東富美江

視界みな青田となりて風渡る

鈴木とし子

梅雨晴間私の今が青春よ

鈴木 利子

夏空や花子の夢の大きかり

玉虫 栗扇

どこまでも青葉一面心地良く

土屋美枝子

ヘルパーになり二年目や青葉木菟

土屋 義昭

闇の中朝に夕べにほととぎす

戸村 静華

空豆やドレミと青く茹であがる

内藤 くに

勢揃ひ百メートルの葱坊主

早川 勇

薩長を走る龍馬や初鯉

藤田 雅夫

短歌

あたふたと洗濯物を取り込みぬ

高梨 キヨ

あじさいを打つ六月の雨に

伊藤 定男

あと四年生きれば百歳数ふるも

天与の命は天に任せり

薄紅の八重の桜は咲き満ちて

磯前神社の裏庭飾る

縁側に苗を育てしサニーレタス

今日に照らひ畝間をふさぐ

道すがら漂ひ来たり忍冬

吾が住む里に夏が来にけり

早苗田に蛙の鳴きてそこかしこ

競うがごとく聞こえくるなり

ふんわりと若葉に包まれる森見れば
サラダにしたき思いがしたり

加瀬 弘子

二週間の短冊展示の傍らに

パンフラワーが淡く咲きたり

西山満里子

清貧を旨となさるる教会の

師は繕へる靴を履きます

昼もなほ小暗き山辺の道ゆけば

木の葉一枚さゆらぎもせず

五歳ほど浜辺を駈ける男の子

お尻がちよつぱり見えていますよ

雷雨去りとなりの榎葉の先は

西日反映して黄金に輝う

朝六時行き交ふ車のしげくなり

活気に満ちた今日が始まる

こうほう博物館 76

坂田池のジュンサイ

横芝中学校が坂田池の近くに移転することになり、工事が始まったころ、中学校予定地の水田を掘り返し、水たまりとなった所に、ジュンサイが芽を出し生えているのを発見された。

ジュンサイは、日本各地に自生する水蓮に近い水草の一種で、芽出しの若葉が寒天質に覆われ、独特の食感が味わえることで、食用としても売られている。

しかし、自生地が多くが失われ、千葉県では最重要保護生物に指定されている。坂田池周辺では工事が始まるまで、このジュンサイは見られなかった。そのジュンサイがなぜ突然出現したのだろうか。以前にも千葉県で古代ハスの種が見つかり、発芽し

たという話がある。ハスもジュンサイも近い種類で、恐らくある条件下で種が長生きしたと思われる。

かつての坂田池も、ハスが生い茂り、夏になるとジュンサイも地味だが可憐な花を咲かせていたことだろう。今復活したジュンサイを守っていききたい。

(社会文化課 道澤 明)



▲ジュンサイの葉と花

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

- 7月 カトレア会
- 8月 華舟会

◎文化会館ロビー

- 7月 絵手紙ひかりの詩
- 8月 水墨画クラブ

◎サビア横芝店

- 7月 水墨画クラブ
- 8月 写友会

◎銚子商工信用組合

- 7月 アート押し花クラブ
- 8月 俳句会